

議 事 録	
会 議 名	令和 7 年度 第 1 回 教育課程編成委員会
日 時	令和 7 年 1 0 月 2 7 日 (月) 1 5 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0
場 所	中央工学校 O S A K A 1 号館 3 1 ・ 3 2 教室
参 加 者	[委 員] (敬称略) 金沢 ちかこ、田鍋 稔、田中 由之、岩尾 美穂、 小坂田 昌広 (欠席)、宮田 哲 (欠席) [関係職員] 中村 聖吾、原 充介、中島 征治、太田 育子、 檜崎 悟志 (写真)、諸岡 邦行 (司会)、吉田 知恵、 篠崎 潤一、平上 秀明、豊田 昌代、谷村 友紀奈 (記録) [オブザーバー] 松田 正之
内 容	1. 令和 7 年度 第 1 回 教育課程編成委員会 司会の諸岡職員が開会の宣言を行い、教育課程編成委員会が開会した。 2. 学校長挨拶 中村校長より松田専務理事の紹介、職業専門実践課程の枠組みで行われる委員会の開催趣旨と、本校の現状について報告があった。 ・ 4 月 9 日 (水) 入学式を実施し、令和 7 年度がスタート。 ・ 4 月 22 日 (火) ~ 26 日 (土) 新入生軽井沢研修を 2 グループで実施 (2 泊 3 日)。研修所は人間涵養教育を体現している施設であると説明。 ・ 7 月 11 日 (金) 軽井沢研修のフォローアップとして、万博記念公園迎賓館でテーブルマナー研修を実施。 ・ 5 月 9 日 (金) 卒業学年を対象に求人企業の 46 社が協力のもと、合同企業説明会を実施。 ・ 7 月 6 日 (日) 二級建築士学科試験を実施。 ・ 7 月 25 日 (金) ~ 30 日 (水) 前期試験を実施。

- ・8月1日(金)～31日(日) 研究科を除く3学科は夏季休暇。
- ・9月1日(月) 夏季休暇終了後の授業を再開。前期試験の返却と解説、課題提出を実施。
- ・9月9日(火)～12日(金) 前期追認試験の実施。
- ・9月25日(木) 前期成績会議を開催し、前期を終了。
後期は、10月1日(水)より通常授業を開始。
- ・9月29日(月)～10月3日(金) 建築学科および住宅デザイン科1年生を対象に、富士教育訓練センターにて建築施工実習を実施した。
- ・10月25日(土)～26日(日)「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」に参加し、1号館を一般公開、学生作品展を実施。
- ・今年度の転科について、住宅デザイン科から4名転科。建築学へ1名、インテリアデザイン科へ3名転科した。

その他配布資料の確認が諸岡職員より行われた。

宮田 哲様の委員参加について原職員により紹介が行われた。

3. 各学科の教育について（教育室長 中島 征治より）

・教育基本方針

建築系教員業務の合理化を図り、教育内容と教育環境を改善。

一級・二級建築士試験の合格率向上に対しても体制を整え、質の高い授業の提供を目指している。

・休退学について

入学前教育プログラムについて、入学意欲の向上、入学後に指導につなげることができるようにベネッセグループの(株)進研アドが開発した「入学前教育プログラム」を今年度より実施。

学内情報管理システムによる個別面談内容の記録を活用し退学に至る問題の発生を未然に防ぐことを継続する。

・内部進学者の増加の促進

建築学科、住宅デザイン科の半数程度を研究科へ進学させることを目標にしている。内部進学の手付けとなるよう、2月の卒業成果・制作発表会で研究科の存在感と魅力を校内で発信できるよう努めている。

	・特色ある学校づくり B I M教育の推進について、建築学科の 1 年生に対して実験的に AI 指導を行っている。 ・資格取得の推進 資格試験対策講座を新たに実施。 ・情報の共有化 出席率の把握について、定期的に学生本人にも自身の出席率を確認できるよう改善を行った。授業日誌について、指導内容に関する情報を担任と共有し、問題の早期発見、早期解決に引き続き努める。 ・秋の文化イベントについて 昨年度より「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪」開催と同時に「学生作品展覧会」を実施。 ・中央工学校（東京校）との連携と情報交換 東京校との委員会と連携を取り常に情報交換を行いより充実した委員会になるように努めている。 ・進路指導 学級担任と職員間での情報共有を徹底し、就職活動の早期化、企業説明会の実施、研究科への進学促進などを進める。 ・運営について（建築系主任 太田 育子より） 専任教員確保や 1 クラス 1 担任制を目標に募集活動を継続し、特に施工系教員の確保を優先。人材を育成するという方針で募集活動を継続。業務の合理化を進めていく。 ・イベント・研修 研修プログラム・イベントとして、軽井沢研修、マナー研修、建築施工実習、スポーツ大会、秋の文化イベント（生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪参加）、国内建築研修、卒業成果制作発表会を実施。11 月 4 日（火）～7 日（金）国内建築研修（研究科）予定。11 月 21 日（金）にスポーツ大会（バレーボール）を予定。
--	---

	・コンペ入賞者の増加を目指す ・デコルムデザインコンペ：民間企業と学校が連携し、各学科 2 年生が授業内で取り組む課題として制作。 ・学生デザインコンペ「主張するみせ」：今年も参加予定。授業内で週 2 回取り組み 11 月末に応募予定。 ・BIM 教育の質の向上 令和7年度より資格対策としてBIM教育の一環としてBIM検定試験のサポート開始予定。 ・発展科目における脱落者問題の解決 令和 7 年度より、選択科目を必修科目とし、脱落者を減らす。資格対策科目をカリキュラムから外し講座形式で実施。 ・演習科目における出席不足の軽減 補習料を徴収したためか、出席率不足者は改善されたが、課題の遅延提出の問題については別途対策を継続して検討する。 ・休退学の防止について Googleclassroom の活用、また学生本人に定期的に出席率の確認を行い、早期に問題を発見できるよう取り組んでいる。 ・カリキュラムの変更等について 住宅デザイン科の CAD ソフト使用について、BIM への連続性も考慮し、Archicad を習得させる。 ・クラス担任について 研究科 1 年：平上 秀明 建築学科 1 年：篠崎 潤一 建築学科 2 年：平上 秀明 住宅デザイン科 1 年：吉田 知恵 住宅デザイン科 2 年：豊田 昌代 インテリアデザイン科 1 年：谷村 友紀奈 インテリアデザイン科 2 年：太田 育子
--	--

・資格取得について

資格講座への移行を行った。理由としては、学生のモチベーションが高い時期に受験勉強を開始すること、本番に向けて最短で集中してサポートすること、ニーズの高い資格やレベルのあった資格にチャレンジさせて資格を取得させること。この 3 つの課題を踏まえて新たな資格講座を実施。

・研究科における二級建築士試験の合格率向上について

今年度の総合合格率目標を 80%以上とする。6 年度の合格率は 63.6%と改善が見られた。分析の結果、出席率 90%以上の学生の合格率は 92.3%であり、出席率が合否に大きく影響していることが分かったため、出席率向上に向けた対策を行う。

・その他

クラブ活動：参加学生の減少および専任教員の人数不足により、当該活動の実施には至っていない。

インフォクリッパーによる出席管理と GoogleClassroom の活用：教員業務の軽減・効率化を推進。

・AI 授業について紹介・案内（校長 中村 聖吾より）

デジタル教育の推進の一環で、建築学科 1 年生に対して AI リテラシーについて授業を実施。その内容を踏まえイケフェスに合わせて、建築学科 1 年生の紹介動画を篠崎職員が作成した作品について紹介があった。

・AI 授業について(篠崎職員より)

- ・授業内で教材とした生成 AI をもとに動画を作成。

【映像を視聴】

- ・授業内容としては、AI と人間の関係について考える、学生自身の課題作品レベルを AI を用いて上げるようにという 2 点をテーマに授業を実施中。

4. 前期課題作品の視察

建築系 3 学科 1 年生の作品を篠崎職員が、建築学科 2 年生の作品を平上職員が、住宅デザイン科 2 年生の作品を豊田職員が、インテリアデザイン科 2 年生の作品を太田職員がそれぞれ説明した。

5. 意見交換

【金沢 ちかこ委員】

・AI について、他の大学などの学校の教授は提出された論文の見分けが付きづらいなど AI を怖いものだと考え抵抗がある様子であった。だが、実務で AI が身近な非常勤講師の先生方は真逆な意見であった。AI の倫理観についてもシビアに考えている様子。場数を踏んで AI と接していくのが大事。

・作品感想について、想像力が豊かで表現的に作られている。デジタルの作品が多くなる中でまだまだ手で作り表現しているものは廃ってないのだと安心した。誇らしげに思う。

【田鍋 稔委員】

・運営面では、合理化を図っている点が印象に残った。出欠管理システムや Google Classroomなどを、どのように活用しているのか確認したい。また、IT に詳しい人材は今後補充が必要ではないかと感じている。東京校と連携し、システム面を正しくリードできる人材の育成・配置が求められるのではないかと。

・教育面については、経験を積みながら学んでいける内容であってほしい。自らの経験を通じて課題に取り組み、場数を踏む中で学びを深められるような教育が望ましい。そのうえで、学習を重ねて成長・進化できるカリキュラムであってほしい。

【田中 由之委員】

・進研アド 入学前プログラムについて具体的に聞きたい【質問】

・校長より【解答】

入学前に簡単なドリルや試験を実施することで、学生の理解度を把握できる。また、アンケートの結果から学生生活における不安点などの情報を得て、入学後の指導に活用している。

・AI について AI では映像のようなものが簡単に生成されるが、基礎的な部分が問われてくると考える。自分の中で理解し落とし込んでいくことが大事。そのようなものに惑わされない知識が必要だと考える。

・中央工学校 OSAKA 通信について、保護者や入学する人に向けても良いものだと思う。

【岩尾 美穂委員】

- ・作品について、言葉を知ることが重要であり、スキルを学ぶだけでなく、本を読む・知識を広げる・感じたことを言葉にするなどの経験が必要だと感じた。スキルの習得とは別に、自分で考え、表現する力を身につけることが重要だと思う。
- ・就職について、1年生の12月までに就職先が決まり始める人がいることに驚いた。

企業は何を見て判断しているのか疑問に思った。【質問】

・中島より【解答】

学校では、就職先を早く決めすぎないように指導している。理想は、2年生の夏ごろに選択授業を終え、分野理解や自己アピールの準備ができてから就職活動を行わせたい。以前は7月にインターンシップを実施していたが十分に機能せず、現在は研究科進学後、3年次での就職活動が理想的と考えている。

- ・早く就職を決めてしまい、十分に考えないまま入社した結果、ミスマッチが起きて退職するようなことになっては意味がない。

・中島より

就職活動の中でエージェント企業が介在することにより、ミスマッチが生じ結果として退職代行を利用するケースも見られる。

【松田 正之専務理事】

- ・東京校と大阪校には近い雰囲気を感じる。大阪校の良い点が学生の作品にも表れている。現在は、平面図を描けばすべてが表現できてしまう時代になっているが、その一方で、自分が引いている一本の線の意味を理解できていない学生も見受けられる。東京校ではタイル張りの授業を取り入れており、このような実体験を通して、自分が描く線に質感を伴わせる力を育てている。今後も、質感や重さを伴った専門学校教育を大切にしていきたい。

【原 充介教務部長】

・事務連絡

令和8年2月17日(火)、18日(水) 卒業制作発表会

令和8年2月19日(木) 第2回教育課程編成委員会

6. 閉会の辞

諸岡職員が閉会の宣言を行い、第 1 回教育課程編成委員会が終了した。

■配付資料一覧

- ・令和 7 年度 第 1 回教育課程編成委員会 次第
- ・教育課程編成委員会委員一覧
- ・令和 7 年度 教育基本方針
- ・令和 7 年度 建築系の運営について
- ・令和 6 年度 中央工学校 OSAKA 卒業作品集
- ・DIPLOMA2025 卒業作品集・活動報告
- ・令和 6 年度 学校関係者評価書

以上